



KEY NOTE

2021年3月期中間報告書

2020年4月1日～2020年9月30日

アコム株式会社
証券コード 8572

創業の精神 信頼の輪

社名の由来

acom

Affection (愛情) **C**onfidence (信頼) **M**oderation (節度)

企業理念

アコムは人間尊重の精神と
お客さま第一義に基づき
創造と革新の経営を通じて
楽しく豊かなパーソナルライフの実現と
生活文化の向上に貢献する

経営ビジョン

一人でも多くのお客さまに最高の満足を感じていただき
個人ローン市場において社会に信頼される「リーディングカンパニー」を目指す

中期経営方針

環境変化にスピード感をもって対応し
持続的成長と企業価値の向上を図るとともに
お客さまの期待を超えるサービスを創出する

中期目標

- ローン・クレジットカード事業残高 1兆円 国内中核事業残高 2.3兆円
- 信用保証事業残高 1.3兆円
- 海外金融事業残高 EASY BUY (営業貸付金) 549億バーツ (1,873億円)

中核3事業残高2.5兆円を目指す

中期重点テーマ

- コンプライアンス・カルチャーの醸成
- 採用・育成・定着の強化による人材基盤確立
- 与信・プロモーションの高度化による集客力向上
- 応対品質強化とデジタル化推進による良質な顧客体験の提供
- ローン・クレジットカード事業の持続的な業容拡大
- 信用保証事業における提携先との更なる連携強化
- 海外金融事業の基盤拡充
- 適正な債権保全の実現
- 環境変化への確に対応するためのIT態勢構築
- 業務改革による高品質・高生産性の態勢構築

平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

新型コロナウイルス感染症によりお亡くなりになられた皆さまには、謹んでお悔やみ申し上げます。また、罹患された皆さまには、心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早いご回復をお祈り申し上げます。

当第2四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症に対する防疫措置をとりながらの社会・経済活動が続いており、感染の再拡大に関して予断を許さない状況にあります。また、海外においても国ごとに状況は異なるものの、活動制限等の影響により景気動向は引き続き厳しい状況となりました。

ノンバンク業界においても、新型コロナウイルス感染拡大の影響により個人消費が急速に減少したことから市場規模は縮小しているものの、足元では各種政策の効果等により消費マインドに持ち直しの動きが見られ、今後は、緩やかな増加へとシフトしていくことが期待されます。

利息返還請求は着実に減少していますが、外部環境の変化等の影響を受けやすいことから、引き続き、動向に留意する必要があります。

このような経営環境の中、当社グループは、国内外の営業拠点で一部休業や営業時間の短縮を余儀なくされてきましたが、お客さまや従業員の安全に配慮しつつ、徐々に営業活動を再開・強化するとともに、引き続き、お客さまからの返済相談等に対して柔軟かつ丁寧に対応してまいりました。

業績につきましては、連結営業収益が前年同期比3.1%減収の1,349億円、営業費用は9.1%減少の804億円となり、営業利益は544億円、経常利益は554億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は435億円となりました。

中期経営計画で定めた2021年度末の目標である「中核3事業の残高2.5兆円」につきましては、コロナ禍を始めとする外部環境が変化する中、達成が非常に困難な状況となりつつありますが、「環境変化にスピード感をもって対応し、持続的成長と企業価値の向上を図るとともに、お客さまの期待を超えるサービスを創出する」という中期経営方針の下、引き続き、努力してまいります。

こうした状況を踏まえ、中間配当は「3円」、期末予想も「3円」、年間合計「6円」と予想しております。

今後も、株主の皆さまのご期待に添えるよう、MUFGグループとの緊密な連携を図りつつ、持続的成長による企業価値の最大化と、広く社会に貢献する企業グループを目指してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

2020年12月

アコム株式会社
代表取締役社長兼会長

木下盛好



● 連結経営成績(2020.4～2020.9)

当第2四半期連結累計期間は新型コロナウイルスの影響で減収

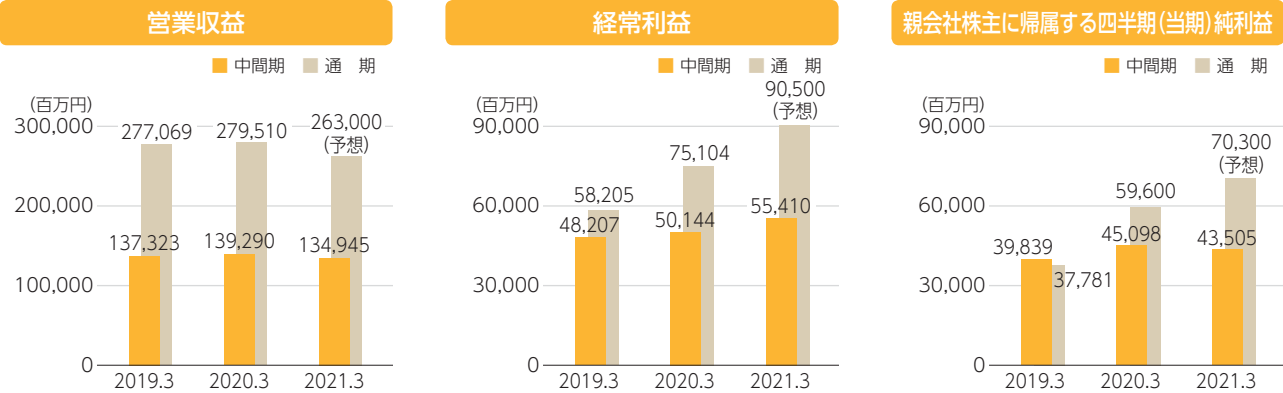
当第2四半期連結累計期間における営業収益は、インドネシア共和国におけるPT. Bank Nusantara Parahyangan, Tbk.を連結の範囲から除外したことに加え、新型コロナウイルス感染拡大の影響による営業貸付金や信用保証残高の減少に伴い、営業貸付金利息や信用保証収益が減少した結果、1,349億4千5百万円(前年同期比3.1%減)となった一方で、営業費用は804億4千6百万円(前年同期比9.1%減)となりました。この結果、営業利益は544億9千9百万円(前年同期比7.3%増)、経常利益は554億1千万円(前年同期比10.5%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、435億5百万円(前年同期比3.5%減)となりました。

■ 連結経営成績

区 分	2019.3	2019.9	2020.3	2020.9	2021.3(予想)
営 業 収 益 (百万円)	277,069	139,290	279,510	134,945	263,000
営 業 利 益 (百万円)	57,607	50,812	75,636	54,499	89,500
経 常 利 益 (百万円)	58,205	50,144	75,104	55,410	90,500
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益 (百万円)	37,781	45,098	59,600	43,505	70,300
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	24.12	28.79	38.04	27.77	44.87
ROE(自己資本四半期(当期)純利益率) (%)	11.1	23.8	15.5	20.0	—
ROA(総資産四半期(当期)純利益率) (%)	2.9	7.0	4.6	6.9	—

(注) ROE、ROA算出のための自己資本および総資産は期首と期末の平均値を使用しています。また、一部数値を年率換算しています。

■ 業績の推移



● 通期業績見通し

2020年10月23日に公表した通期連結業績予想は、営業収益2,630億円、営業利益895億円、経常利益905億円、親会社株主に帰属する当期純利益703億円としております。通期連結業績予想に対する当第2四半期連結累計期間業績の進捗率は、営業利益60.9%、経常利益61.2%、親会社株主に帰属する四半期純利益61.9%と順調に推移しております。

● 利息返還の状況

当第2四半期連結累計期間の利息返還損失は、142億4千1百万円(前年同期比16.2%減)となり、全額を利息返還損失引当金から取り崩した結果、当第2四半期末の同引当金は733億5千9百万円となりました。

当第2四半期連結累計期間における利息返還請求は、前年同期比減少で推移しております。

利息返還請求件数の推移 (単位: 件、%)

	2019.3	前期比	2019.6	2019.9	2019.12	2020.3	前期比	2020.6	前年同期比	2020.9	前年同期比
利息返還請求件数	27,100	-21.0	6,600	12,800	18,900	24,700	-8.9	5,800	-12.1	11,600	-9.4

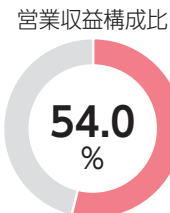
※利息返還請求件数: 弁護士・司法書士受任債権発生件数の内、当社が利息制限法に基づいて再計算した結果、利息返還金が発生する件数
※利息返還請求件数には再受任分を含む

利息返還損失引当金の推移 (単位: 百万円、%)

	2019.3	前期比	2019.6	2019.9	2019.12	2020.3	前期比	2020.6	前年同期比	2020.9	前年同期比
期首引当金残高	104,068	-36.9	102,300	102,300	102,300	102,300	-1.7	87,600	-14.4	87,600	-14.4
取崩額	41,248	-32.2	8,058	16,992	25,797	34,400	-16.6	6,854	-14.9	14,240	-16.2
利息返還金	36,586	-31.6	7,210	15,185	22,988	30,686	-16.1	6,113	-15.2	12,690	-16.4
貸倒損失(債権放棄)	4,661	-36.7	847	1,806	2,808	3,713	-20.3	741	-12.5	1,549	-14.2
繰入額	39,479	—	—	—	—	19,700	-50.1	—	—	—	—
期末引当金残高	102,300	-1.7	94,241	85,307	76,502	87,600	-14.4	80,745	-14.3	73,359	-14.0

ローン・クレジットカード事業

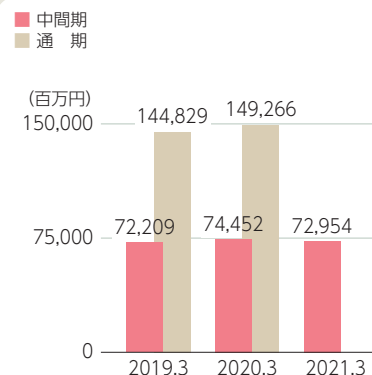
営業貸付金の減少により減収となったものの、貸倒関連費用等の減少により増益



国内のローン・クレジットカード事業においては、新型コロナウイルス感染拡大に伴う経済活動の自粛等により資金需要が低下し、新規貸付や追加利用が大きく減少したことで、当第2四半期連結会計期間末における当社の営業貸付金（ローン残高）は、7,946億4千4百万円（前年同期末比5.0%減・前期末比5.5%減）になるとともに、前期において順調に増加していた割賦売掛金（クレジットカード残高）も756億8千8百万円（前年同期末比8.7%増・前期末比0.9%増）と伸長が鈍化しました。

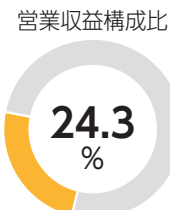
当第2四半期連結累計期間の業績においては、営業貸付金が減少したことによる営業貸付金利息の減少等を主因に、営業収益が729億5千4百万円（前年同期比2.0%減）となりましたが、営業費用は貸倒関連費用や広告宣伝費が前年同期比で大きく減少し、営業利益は295億5千2百万円（前年同期比13.0%増）となりました。

営業収益 **729** 億円
(前年同期比 2.0% ▼)



信用保証事業

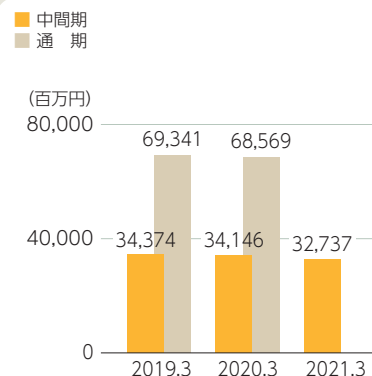
信用保証残高の減少により減収となったものの、貸倒関連費用等の減少により増益



信用保証事業においても、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、当第2四半期連結会計期間末における当社およびエム・ユー信用保証株式会社の信用保証残高は合算で1兆1,787億5百万円（前年同期末比3.7%減・前期末比4.4%減）となりました。

当第2四半期連結累計期間の業績においては、信用保証残高の減少による信用保証収益の減少を主因に、営業収益が327億3千7百万円（前年同期比4.1%減）となりましたが、営業費用は貸倒関連費用が前年同期比で大きく減少し、営業利益は136億円（前年同期比3.1%増）となりました。

営業収益 **327** 億円
(前年同期比 4.1% ▼)



海外金融事業

Bank BNPの連結除外影響およびEASY BUYの貸倒関連費用の増加により、減収減益

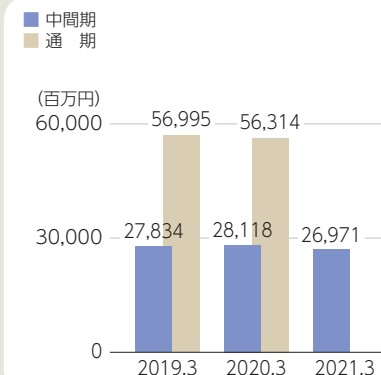


海外金融事業においても、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、現地政府の要請に従い営業店舗の一時閉鎖等の対応をおこなってまいりました。

当第2四半期連結累計期間の業績においては、前期にインドネシア共和国におけるPT. Bank Nusantara Parahyangan, Tbk.の全株式を売却し、連結の範囲から除外したことにより、営業収益、営業費用、営業利益に減少影響がありました。また、タイ王国のEASY BUY Public Company Limitedにおいては、営業貸付金利息の増加を主因に営業収益は増加したものの、貸倒関連費用が増加したことなどにより、営業利益は減益となりました。

以上から、海外金融事業の営業収益は269億7千1百万円（前年同期比4.1%減）、営業利益は109億円（前年同期比1.6%減）となりました。

営業収益 **269** 億円
(前年同期比 4.1% ▼)



債権管理回収事業

新型コロナウイルスの影響を受け営業の一部自粛を余儀なくされ、買取債権回収高が減少した結果、減収減益



債権管理回収事業においても、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、アイ・アール債権回収株式会社では、営業の一部自粛を余儀なくされました。

当第2四半期連結累計期間の業績においては、買取債権回収高の減少を主因に、営業収益が22億8千6百万円（前年同期比11.1%減）、営業利益は4千5百万円（前年同期比85.2%減）となりました。

営業収益 **22** 億円
(前年同期比 11.1% ▼)



アコムは企業の社会的責任と使命を果たし、持続可能な社会の実現に貢献します

アコムのCSR

アコムが考えるCSRとは、役職員一人ひとりが、企業理念に基づき、適正なコーポレートガバナンス体制やコンプライアンス態勢を維持しながら、CS理念に基づく事業活動や社会貢献活動方針等に基づくその他の活動を実践することで、社会的責任を果たし、持続可能な社会の実現に貢献することです。

重点活動テーマに「**お客さまの最高の満足のために**」、「**社会・環境のために**」、「**従業員のために**」を掲げCSR活動に取り組んでいます。

お客さまの最高の満足のために

CS理念／私たちはより良いサービスをより快適に提供します。

アコムは、企業理念やCS理念に基づくCS活動を通じ、お客さまからいただいた貴重なお意見、ご要望、お問い合わせなどを真摯に受け止め、さまざまな改善をおこなうことにより、お客さま満足の向上に努めています。

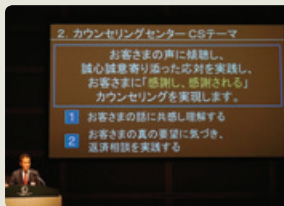
CS経営の推進

● CS経営推進会議の設置

お客さまを「顧客」ではなく「個客」として捉え、お客さま一人ひとりに真の満足を感じていただくためのCS（お客さま満足）経営を推進するため、社長を議長とした「CS経営推進会議」を定期的に開催し、CS向上施策や社内推進体制等を協議しています。

● CSアワードの開催

「気づき」によるCS対応の実践と研鑽する風土を醸成し、「創業の精神」や「企業理念」の更なる浸透を図ることを目的に、各部門から選ばれた従業員が、日頃の取り組み事例とその成果について発表し、共有しています。



● お客さまの声の収集と改善

従業員が、お客さまから寄せられたご要望や、自らの体験から気づいた当社の商品・サービスなどの改善事項を、「CS改善提案カード」や「CS体験カード」として提案し、商品・サービスの改善や好事例の共有をおこなっています。また、インターネットで「お客さま満足度調査」を適宜実施し、サービス改善に活かしています。

具体的な改善事例

- ✓ お客さまの利便性向上を目的にスマホアプリに生体認証でのログインやプッシュ通知、QRコード取引などの機能を追加
- ✓ お客さまのプライバシーへの配慮や即時性のニーズに更にお応えするため、ご来店や郵送でカードを受取る必要のないカードレスでの契約スキームを追加
- ✓ 利便性向上のためローンのみ利用可能だった一部提携先ATMにクレジットカード入金機能を追加

アコムのCSR



社会・環境のために

社会貢献活動方針

アコムは、社会福祉、地域貢献等、さまざまな活動を通じて、地域社会と良好な関係を築きつつ、「身近なアコム」と「社会に調和した企業市民」を目指しています。

文化・芸術支援活動

● アコム“みる”コンサート物語

アコム“みる”コンサート物語とは、「影絵」と「生演奏」、「語り」を組み合わせた独創的な芸術です。手話通訳や車イス専用席を充実させるなどの工夫をおこない、お子さまからお年寄りまで、また、ハンディキャップのある方も一緒に楽しむことのできるバリアフリーコンサートです。

「誰かのために何かをしたい」、「多くの人の笑顔がみたい」、「地域社会と良好な関係を築きたい」という『3つの思い』を胸に1994年から活動が続けています。2020年度上期は、コロナ禍の影響により開催を中止しておりますが、状況を鑑みて再開します。



環境保全活動

● 地域清掃活動の実施

社員が多く在籍する拠点周辺での地域清掃活動に参加し、地域とのコミュニケーションや地域環境の美化に努めています。2020年度上期は、主催団体から中止の申出があり見合わせておりますが、状況を鑑みて再開します。



社会福祉支援活動

● 献血活動

日本赤十字社がおこなう献血活動に賛同し、社員に推奨しており、毎年多くの社員が自主的に協力しています。2020年度は10月から活動を開始し、第1回目は東京の本社で75名の社員が参加しました。



消費者啓発・金銭教育支援活動

● 大学での金銭教育

大学生向けの講座として、授業の中で「消費者信用業界の概要」や「ローン・クレジット」に関する講義をおこなっています。また、未来を担う学生たちが将来金銭トラブルに巻き込まれることのないよう、社会人になる前からお金の大切さを身につけていただきたいとの思いから、金銭啓発活動を実施しています。2020年度は10月から講義を開始しており、第1回目は約150名の学生にご参加いただきました。



従業員の ために

従業員満足の上昇がお客さまの満足につながり、ひいては企業としての存在価値の向上に結びつくという考え方で、ES向上を推進しています。

ワークライフバランスの推進

● 福利厚生充実

社員からの福利厚生の更なる充実を望む声に応え、2020年10月1日よりカフェテリア・プランを導入しました。

カフェテリア・プランとは、社員が付与されたポイントの範囲内で、予め用意された福利厚生サービス（スポーツ施設の利用や育児・介護サービスなど）の中から好きなものを選択できる制度です。プライベートの多様化に対応できる働きやすい職場づくりに取り組んでいます。

● 通年輕装化の導入

より働きやすい職場づくりを目的に、通年で輕装化を導入しています。従業員からは、「輕装化により働きやすくなった」「モチベーションUPにつながった」などの声があがっています。

● 社員意識調査の実施

従業員の要望をよりの確に把握し、安心して働ける職場環境を整備するため、年に1回実施していた「社員意識調査」を2020年度より年2回へ変更しました。第1回は2020年9月に実施し、収集した意見をもとに更なる従業員の満足度を向上させるための施策の立案、推進に活用しています。



● オンライン勉強会

社員の自己啓発支援のため社内にてオンライン勉強会を実施しました。

オンライン勉強会 実施内容

5回開催、参加者数277名

- 当社の決算について
- ビジネススクールについて（計2回）
- 困難な状況をやり抜く実行力
～海外赴任の経験を通じて～（計2回）

受講者の声

文化や習慣などが違う異国で、「強い気持ちであきらめず努力を続ける」簡単なことではないと思います。「決めたことは変えない」という強い気持ち、見習いたいと思います。

コロナ禍において対面での勉強会の開催が困難な中、このような機会は有効だと感じた。普段、業務上接点を持たない先輩社員の体験談はとても有意義でした。

対面だと参加するに当たり、会場までの移動時間を要す等の障壁がありますが、オンラインはそんなことがないので気軽に参加できました。

テレビCM

商品・サービス訴求、CSR活動を紹介したCMの放映

俳優の渡部篤郎さん、タレントの佐藤美希さんを起用し、商品・サービスを訴求したテレビCMを放映しています。また、2019年7月よりタレントの足立梨花さんを起用し、当社のCSR活動である「アコム“みる”コンサート物語」をモチーフにしたCMも放映しています。

▶ 沖縄出張篇 「はじめてのアコム」 訴求



出張で沖縄にやって来た渡部部長と佐藤さん。沖縄の方言で言う「はじめてのアコム」の響きにうっとり。いつものサウンドロゴも沖縄バージョンになるなど、「はじめてのアコム」をより印象付ける内容となっています。

▶ キャッシュレス おじさん篇 クレジットカード 訴求



外回り中にアウトドアショップで欲しい商品を見つけた「土日は、アウトドアしちゃう系」の渡部部長。即日発行できるアコムのクレジットカードを使って、キャッシュレスの利便性を訴求したCMになっています。

▶ 書道展篇 金利0円サービス 訴求



書道展にやって来たものの、独特の文字に何が書かれているかわからない渡部部長に対し、スラスラと読み進める佐藤さん。書道作品には、「金利0円サービス」の内容が書かれており、セリフと映像で興味を引くような工夫を盛り込んだCMになっています。

▶ アコム “みる”コンサート 物語篇



当社がCSR活動の一環でおこなっているバリアフリーコンサート「アコム“みる”コンサート物語」。足立梨花さんが、実際の出演者の方々とともにコンサートの内容を紹介する臨場感のあるCMとなっています。

● 連結貸借対照表(要旨)

(単位：百万円)

科 目				前期末 2020年3月31日現在	当第2四半期末 2020年9月30日現在
資 産	の 部	流 動 資 産		1,213,402	1,158,196
		現金及び預金		82,545	81,574
		営業貸付金		1,041,711	984,553
		割賦売掛金		75,726	76,277
		買取債権		9,188	8,458
		その他の債権		87,205	84,638
		貸倒引当金		△82,974	△77,306
		固定資産		68,986	64,860
		有形固定資産		15,156	14,788
		無形固定資産		7,542	7,025
投資その他の資産		46,287	43,045		
資 産 合 計				1,282,389	1,223,056
負 債	の 部	流 動 負 債		216,694	168,916
		短期借入金、コマーシャル・ペーパー		45,329	5,963
		1年内返済予定の長期借入金		91,048	77,840
		1年内償還予定の社債		48,026	55,450
		債務保証損失引当金		9,475	7,890
		その他の負債		22,813	21,772
		固定負債		623,198	573,422
		社定期借入金		196,300	169,665
		利息返還損失引当金		333,388	324,456
		資産除去債務		87,600	73,359
その他の負債		4,375	4,243		
負 債 合 計				839,892	742,339
純 資 産	の 部	株 主 資 本		409,547	449,919
		資本剰余金		63,832	63,832
		利益剰余金		73,549	73,549
		自己株式		291,959	332,331
		その他の包括利益累計額		△19,794	△19,794
		その他有価証券評価差額金		5,775	3,551
		為替換算調整勘定		0	0
		退職給付に係る調整累計額		7,956	5,348
		非支配株主持分		△2,180	△1,796
		非支配株主持分		27,173	27,246
純 資 産 合 計				442,496	480,717
負 債 純 資 産 合 計				1,282,389	1,223,056

A

B

B

C

D

連結貸借対照表のポイント

A 営業貸付金

営業貸付金は、当社およびEASY BUYにおいて、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、前期末に比べ571億5千7百万円の減少（前期末比△5.5%）となりました。

B 有利子負債残高

借入金、社債などの有利子負債残高は、前期末に比べ807億1千9百万円の減少（前期末比△11.3%）となりました。

C 利息返還損失引当金

利息返還損失引当金は、利息返還金と債権放棄額の合計142億4千万円を全額取り崩しで対応したことにより、前期末に比べ142億4千万円の減少（前期末比△16.3%）となりました。

D 自己資本

自己資本は、前期末に比べ381億4千8百万円の増加（前期末比+9.2%）となり、自己資本比率は、4.7ポイント増加し37.1%となりました。

● 連結損益計算書(要旨)

				(単位:百万円)	
科 目				前第2四半期 2019年4月1日から 2019年9月30日まで	当第2四半期 2020年4月1日から 2020年9月30日まで
営 業 収 益				139,290	134,945
営 業 貸 付 金 利 息				87,247	85,897
銀 行 業 貸 出 金 利 息				1,567	—
包 括 信 用 購 入 あ っ せ ん 収 益				4,412	4,914
個 別 信 用 購 入 あ っ せ ん 収 益				32	31
信 用 保 証 収 益				29,846	28,536
買 取 債 権 回 収 高				1,996	1,805
そ の 他 の 金 融 収 益				197	1
そ の 他 の 営 業 収 益				13,989	13,760
営 業 費 用				88,478	80,446
金 融 費 用				4,538	3,125
債 権 買 取 原 価				813	727
そ の 他 の 営 業 費 用				83,126	76,593
営 業 利 益				50,812	54,499
営 業 外 収 益				277	923
受 取 利 息 ・ 配 当 金				77	26
そ の 他				200	896
営 業 外 費 用				945	12
支 払 利 息				12	8
為 替 差 損				923	—
そ の 他				9	3
経 常 利 益				50,144	55,410
特 別 利 益				9,875	0
固 定 資 産 売 却 益				0	0
関 係 会 社 株 式 売 却 益				9,875	—
特 別 損 失				4,784	42
固 定 資 産 売 却 損 ・ 除 却 損				47	41
減 損 損 失				2,370	—
合 併 関 連 費 用				2,363	—
そ の 他				2	0
税 金 等 調 整 前 四 半 期 純 利 益				55,235	55,368
法 人 税 、 住 民 税 及 び 事 業 税				7,140	7,098
法 人 税 等 調 整 額				1,137	2,115
四 半 期 純 利 益				46,957	46,154
非支配株主に帰属する四半期純利益				1,859	2,648
親会社株主に帰属する四半期純利益				45,098	43,505

連結損益計算書のポイント

A 営業貸付金利息

営業貸付金利息は、EASY BUYが増加したものの、当社の営業貸付金残高の減少に伴い、前年同期に比べ13億5千万円の減少（前年同期比△1.5%）となりました。

B 信用保証収益

信用保証収益は、信用保証残高の減少により、前年同期に比べ13億1千万円の減少（前年同期比△4.4%）となりました。

C その他の営業費用

その他の営業費用は、貸倒引当金繰入額、債務保証損失引当金繰入額の減少などにより、前年同期に比べ65億3千2百万円の減少（前年同期比△7.9%）となりました。

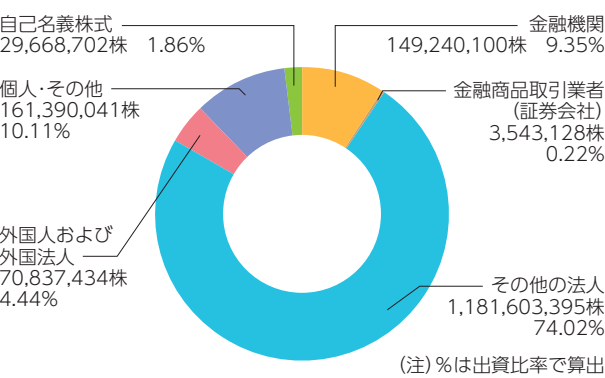
D 親会社株主に帰属する四半期純利益

親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年同期に比べ15億9千3百万円の減少（前年同期比△3.5%）となりました。

株式数および株主数

発行可能株式総数	5,321,974,000株
発行済株式の総数	1,596,282,800株
株 主 数	10,764名

所有者別分布状況



アコムは三菱UFJフィナンシャル・グループの連結子会社です

当社は、2008年9月、㈱三菱UFJフィナンシャル・グループ(MUFG)ならびに㈱三菱東京UFJ銀行(現・㈱三菱UFJ銀行)と締結していた三者間の戦略的業務・資本提携の関係を一層強化すると公表しました。

これまでのパートナーシップを通じて培ってきた相互の信頼関係に基づき、「今後の消費者金融市場の健全な発展に中核的役割を果たすことが社会的使命」との認識で一致したもので、これにより、2008年12月、MUFGの連結子会社となりました。

当社は、MUFGグループの「消費者金融事業」と「カードローンにおける信用保証事業」の中核企業とし位置づけられています。

会社の概要

商 号	アコム株式会社
(英 文 社 名)	ACOM CO., LTD.
設 立 年 月 日	1978年(昭和53年)10月23日
(創 業)	1936年(昭和11年)4月2日
資 本 金	638億3,252万円
主 な 事 業 内 容	ローン・クレジットカード事業、 信用保証事業
従 業 員 数	2,127名
本 社 所 在 地	東京都千代田区丸の内二丁目1番1号 (明治安田生命ビル)
登 録 番 号	関東財務局長(13)第00022号 関東(包)第5号
加 盟 団 体	日本貸金業協会 一般社団法人日本クレジット協会 一般社団法人日本経済団体連合会
主要取引金融機関	株式会社三菱UFJ銀行

アコムグループ

国内連結子会社

- エム・ユー信用保証株式会社
- アイ・アール債権回収株式会社

海外連結子会社

- EASY BUY Public Company Limited
- ACOM CONSUMER FINANCE CORPORATION

持分法適用関連会社

- エム・ユー・コミュニケーションズ株式会社

取締役および執行役員

代表取締役社長兼会長 (兼 社長執行役員)	木 下 盛 好
代表取締役副会長	和 地 薫
代表取締役副社長 (兼 副社長執行役員)	木 下 政 孝
常 務 取 締 役 (兼 常務執行役員)	内 田 智 視
常 務 取 締 役 (兼 常務執行役員)	桐 洵 高 志
取 締 役	堀 直 樹
取締役常勤監査等委員 (社外)	伊 藤 達 哉
取締役常勤監査等委員	福 元 一 雄
取締役常勤監査等委員 (社外)	石 川 昌 秀
常 務 執 行 役 員	近 藤 誠
常 務 執 行 役 員	嘉 村 康 裕
常 務 執 行 役 員	黒 田 大
常 務 執 行 役 員	小 野 寺 道 人
常 務 執 行 役 員	鹿 野 谷 智 雄
執 行 役 員	曾 根 雅 行
執 行 役 員	清 岡 哲 弘
執 行 役 員	土 井 保 英
執 行 役 員	吉 羽 優 志
執 行 役 員	柴 田 秀 彦
執 行 役 員	木 下 裕 司
執 行 役 員	町 田 雅 彦
執 行 役 員	鍋 岡 正 俊
執 行 役 員	横 濱 等
執 行 役 員	野 田 剛 男



A — Affection 愛情
CO — Confidence 信頼
M — Moderation 節度

アコム株式会社

本 社 〒100-8307
東京都千代田区丸の内二丁目1番1号
(明治安田生命ビル)
電話 (03)5533-0811 (代表)
ホームページ <https://www.acom.co.jp>

表紙のタイトル

「KEY NOTE (キー・ノート)」には、株主の皆さまに、アコムグループをより深くご理解いただくための〈鍵となる報告書〉でありたいという願いが込められています。小誌がアコムグループの概況を知るための一助となれば幸いです。



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人 特別口座 □座管理機関	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 電話 0120-232-711 (通話料無料) 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
単元株式数	100株
公告方法	電子公告 (https://www.acom.co.jp) ただし、やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。
上場金融商品取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	8572

お知らせ

- (1) 株主さまの住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関（証券会社等）で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- (2) 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本店でお支払いいたします。